第168回　中小企業景況調査（2022年4-6月期）　関東

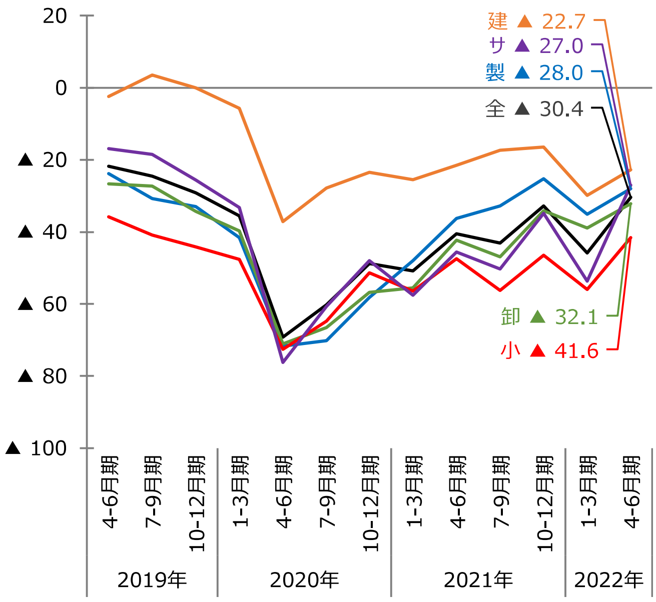
資料No.13

1　業況感

関東地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2022年1-3月期）より15.5ポイント増の▲30.4と2期ぶりに上昇した。産業別にみるとサービス業、小売業、製造業、建設業、卸売業の5産業すべてで上昇した。

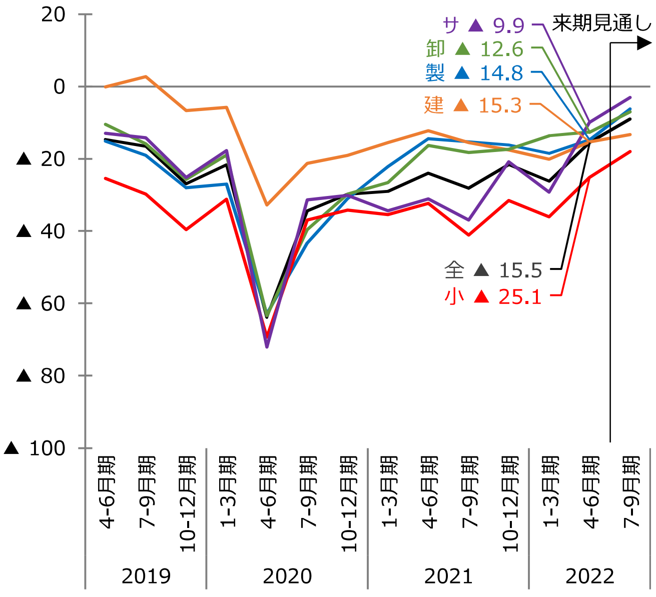
全産業　製造業　建設業　卸売業　小売業　サービス業

業況判断ＤＩ（今期の水準）



※今期の業況について「良い」、「ふつう」、「悪い」で質問

業況判断ＤＩ（前期比季節調整値）

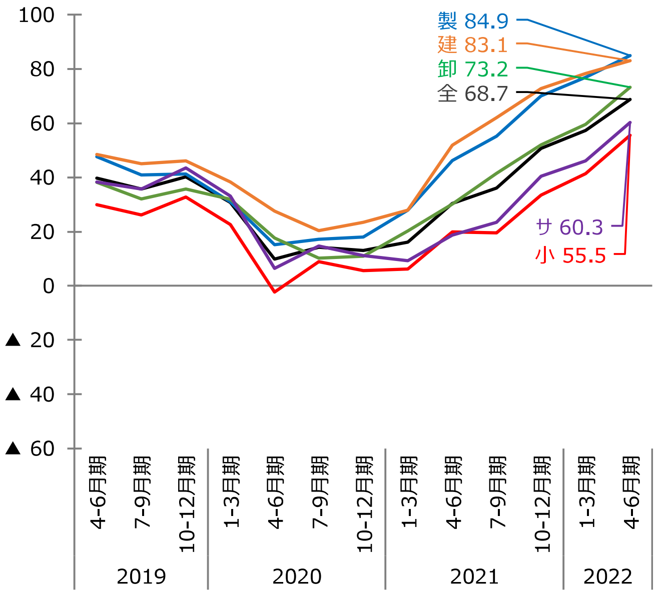


※前期（2022年1-3月期）と比べて、「好転」、「不変」、「悪化」で質問

2　仕入単価・販売単価

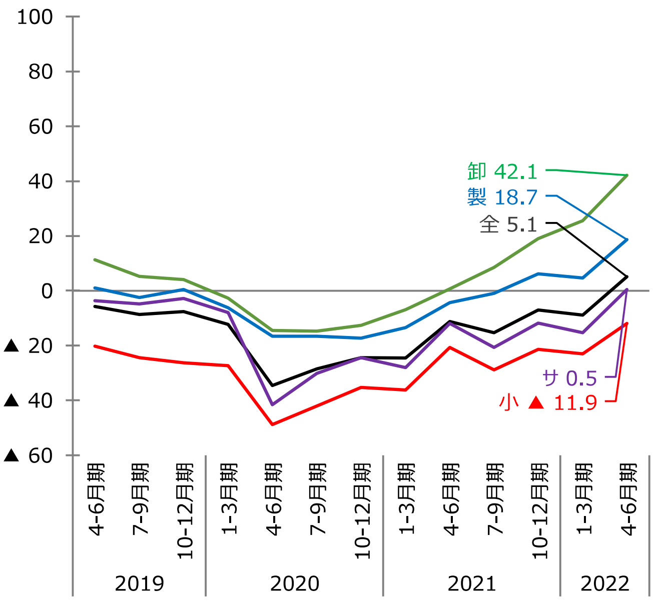
原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より11.3ポイント増の68.7と6期連続して上昇した。産業別にみると5産業すべてで上昇した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より14.0ポイント増の5.1と2期ぶりに上昇した。産業別にみると4産業すべてで上昇した。

原材料・商品仕入単価ＤＩ（前年同期比）



※前年同期（2021年4-6月期）と比べて「上昇」、「不変」、「低下」で質問

売上単価・客単価ＤＩ（前年同期比）



※前年同期（2021年4-6月期）と比べて「上昇」、「不変」、「低下」で質問

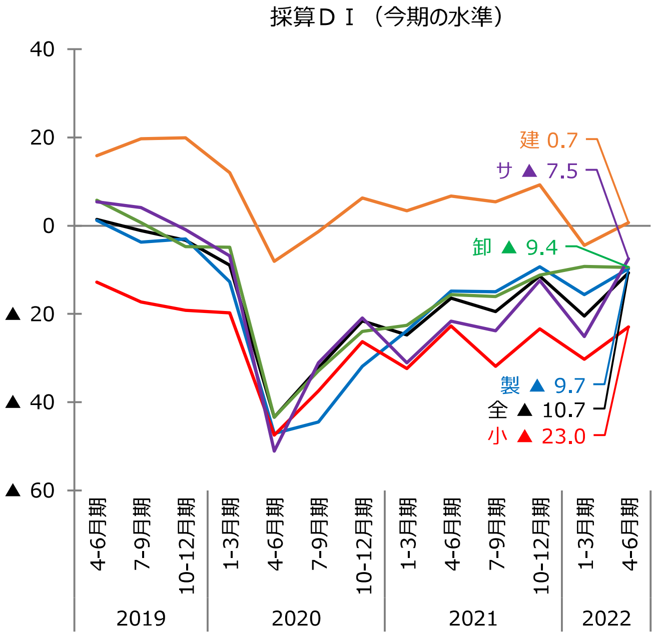
＜調査概要＞　調査時点は2022年6月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,853　有効回答企業数：18,137　有効回答率：96.2%　うち、関東：4,937企業

第168回 中小企業景況調査（2022年4-6月期） 関東

③ 採算

採算DIは、全産業で前期より9.8ポイント増の▲10.7と2期ぶりに上昇した。産業別にみるとサービス業、小売業、製造業、建設業で上昇し、卸売業で低下した。



※今期の採算について「黒字」、「収支トントン」、「赤字」で質問。

④ 関東の中小企業の声

	業況判断の背景	業種	
現状	ウッドショックは、おさまりつつあるが、価格は高値で安定している。ウッドショックにより、住宅の価格が１～２割程度上がっているが、円安にて輸入品が値上げしており、お客の検討期間が長引いている。	製造業	集成材製造業
	コロナの影響で資材等の価格上昇や入手困難な状況が続いている。そのため工期に間に合わせるため資材の発注を早めにする等対応している。需要は増加傾向に感じる。	建設業	木造建築工事業
	木材・建材とも値上げ幅が大きく、販売単価に転嫁しにくいが、値上げ分売上げが増している。	卸売業	木材・竹材卸売業
	粉等の原材料、ガス代等エネルギーの経費が異常になっております。商品をもっと値上げしないと追いつかないのに、これ以上なかなか上げられないので板挟みとなっております。	小売業	菓子小売業（製造小売）
	まん防解除後は緩やかではあるが売上は回復し伸びてきている。今後の感染状況次第で少しずつ良くなってくると思われる。現在の課題としては乗務員の確保と燃料単価の高騰が特に厳しい状況です。	ｻｰﾋﾞｽ業	一般乗用旅客自動車運送業
見通し	原材料価格は上がっているが、この先も更なる値上げが予想される。加えて、電気料金等も上がる。しかし、なかなかコスト上昇分を製品価格に転嫁できない。	製造業	他に分類されないプラスチック製品製造業
	現在は、売上増加傾向にあるが、今後減少していかないか不安を感じている。仕事量が増えても人員の確保が難しい。	建設業	一般管工事業
	仕入単価の上昇、納品時期の遅れ、光熱費の上昇など利益下押し要因が重なり、厳しい業況が継続する見通し。	卸売業	家具・建具卸売業
	今後大幅な食用油・小麦・包装材等の値上りが見込まれることから、店頭価格を値上げせざるを得ない状況になった場合に、売上げが減少（来客数の減少）することを懸念しています。	小売業	食肉小売業（卵，鳥肉を除く）
	コロナも３年目となってしまう中、少しづつですが売上も伸びてきていますが、物価上昇で仕入材料費が上がってきており、今後の経費に影響が心配されます。	ｻｰﾋﾞｽ業	旅館，ホテル

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)
項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。